



国際森林年に 木育推進を

◆森林整備の推進状況

問 本年は国際森林年だが、森林整備の計画は。また源流の森整備の現状は。(丸山)

答 国際森林年の本年6月に高ボッチ高原の市有林で「ふるさとの森づくり県民の集い」を県とともに開催し、啓発もしていく。今年度は檜川地区の源流の森整備を行った。今後も市内で整備していく。

◆木質バイオマス利用

問 自然エネルギーであるペレットストーブの購入補助状況はどうか。(丸山)

答 平成13年から合計12件の購入補助をしている。市役所ロビーでの展示もしているが、



ペレットストーブの活用を



漆器に似合う料理講演会

利用促進のPRを今後も図っていく。

◆木製品での啓発は

問 木のおもちゃを使つての新年度事業は何か。(丸山)

答 国際森林年の事業の一環として、9月には「木育フェスティバルin塩尻」を商工会議所や青年会議所と連携して開催する。「グッド・トイ・キャラバン」も誘致し、えんぱーくやこども広場等で木育を推進していく。

問 漆器を使つたイベントや講習会の開催は。(丸山)

答 今年度は「漆器に似合う料理講演会」や漆器の展示・体験学習を産地以外でも開催した。えんぱーくに備品として用意した食器等漆器製品の利用も含め、漆器に触れ親しむ機会が持てるよう、イベント開催の実行委員会等と相談を進めていく。

◆平成23年度から実施を

問 本市で24年度から予定している中学校での30人規模学級を、県の予算を活用して23年度から実施できないか。また、教員の確保などについてはどうか。(柴田)

答 検討の結果、新たに県費加配の教職員が配置されれば可能と判断し、来年度から丘広陵、塩尻西部の各校で実施する予定。また、教員確保の見通しはついている。



住宅 リフォーム 制度の検討

◆リフォームで仕事起しを

問 「地域経済活性化を」の声に応え、幅広い関連職種



住宅耐震工事のようす

仕事につながると、大きな経済効果が話題となっている、住宅リフォーム助成制度を早急に創設すべきだ。(鈴木)

答 県下でも取り組む自治体が増えており、効果が期待できるものと考えられる。検討し、できるだけ早く実施していきたい。

◆市内耐震診断・耐震施工は
問 市内の住宅耐震施工状況は。(太田)

答 市内7千100棟対象で、診断1千200件、改修施工済みは48件である。

◆住宅リフォーム助成制度の創設を
問 本市の建築確認申請の状況は、平成17年度が約440件、平成21年度が約280件と大きく減少しているが、リフォーム助成制度の考えは。(永井)

答 住宅リフォームの助成は、地域経済の活性化や雇用の拡大等、多様な業種や職種に効